

NPO法人ありんこ公式ホームページ  
arinngo.sakura.ne.jp

右のQRコードを読み込むと、ホームページを閲覧できます。



# ありんこだより

発行 NPO法人ありんこ編集部

編集責任者 一戸 由佳

住所 青森県弘前市大字富栄  
字笹崎80-1

電話 0172-96-2774

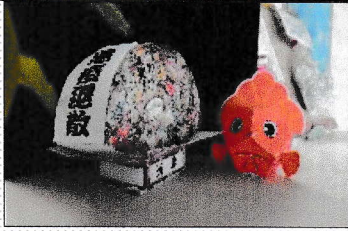
Fax 0172-55-9591

## Withコロナ～新しい生活様式の夏～

青森に、夏祭りのない夏が来ました。施設でも日々感染予防対策をとりながら、新しい生活様式がどうあるべきか、模索しながらの毎日です。

そんな中でも職員の創意工夫で一つ一つ、いつもと違う夏の楽しみ方を見つけ活動していて、子どもたちの元気な声が聞こえてきます。玄関には小さなねぶたも出現しました。そうしたらそのねぶたに灯りがともるようになりました。すると隣に金魚ねぶたも並びました。子どもたちは時々そのねぶたを眺めに事務室の前にやってきます。そんな姿に、私たち職員も癒されています。

まだまだ終息は見通せませんが、長い自粛生活で心が疲弊し、病んでしまうことがないように、新しい日常を受け入れながら過ごしていきたいと思えます。「ありんこホームページ」には日々の子どもの様子なども掲載していますので、ぜひご覧ください。



## 理事長のつぶやき

「安楽死」と「尊厳死」の話

最近ひとつの事件をきっかけに話題に上ることが多くなった二つの「死の迎え方」。どちらも本人の意思による「死に方」と言えると思うが、この二つの違いは何だろう。「日本尊厳死協会」によると、「尊厳死」とは、延命措置を断って自然死を迎えること。「安楽死」は医師など第三者が薬物などを使って患者の死期を積極的に早めること。だそうだ。

このような意味の違いから、尊厳死を消極的安楽死、安楽死のことは積極的安楽死ということもあるそうだ。日本では安楽死(積極的安楽死)は認められていない。なので今回のALSの患者の死は「囁託殺人」として捜査が進められている。

問題なのは「安楽死」かどうか、ではなく、彼女がなぜ死にたいと願ったのか、だと思ふ。

報道の一部しか見ていないので、あくまでも私見だが、彼女は死にたいと願ったというより、生きているのが嫌になったのだろう。自分の力で人生を切り開いてきた人間が、「生きること全て」に他者の手を借りなければならなくなる。プライドが傷つき、尊厳が損なわれたと感じたのかもしれない。

けれども、彼女は一人暮らしを続け、24時間介護を利用していらしいから、身近な支援者と、話ができなかったのか。彼女を「生きていたくない」と思わせたのは福祉制度か。いや、制度ではなく「福祉に携わるヒト」だったのではないか。

「死に方」を選ぶ権利とともに「生き方」を選択すること。「あるがままで生きる」権利を「申し訳ない」と後ろめたく思わず当たり前主張できる世の中は来るのか。コロナ禍で、私は考える。

## ひとりひとりに合わせる工夫



「やよいのあかり」では、利用する子どもたちに合わせて使用する用具、家具などを調整しています。既製品を加工することも多いのですが、左の靴箱のように、廃材を利用して作成することもあります。これまで使っていた既製品が、利用者の成長で使いにくくなったこともあり、今回は職員が手作りました。

高さ、幅、転倒防止のための工夫など、考えられるものを形にし、試行錯誤の末に完成して使用を開始しています。利用開始直後に保護者の方からアドバイスをいただき、より安全性に配慮して、上部の角周辺にクッション材を当てる改良をしました。今後も利用者一人一人のニーズ、使用する目的、課題解決のためのプロセスなど、支援計画に基づきながら環境の整備にも努めていきます。保護者の皆さまも、何かお気づきのことがありましたら、ご意見等をお寄せください。

## ご近所づきあい！！

今年も「子どもたちに…」と、立派な果樹園のあるお隣から、箱いっぱいのおももをいただきました。子どもたちはもちろん職員も、良い香りとジューシーな甘みを堪能しました。

毎年の勤労感謝の日には感謝状などを手作りにして届けています。地域に根差した施設として、これからも地域の方々との交流を続けていきたいと思っています。ごちそうさまでした。



## おしらせ

児童指導員 柴谷 愛

この度、一身上の都合で退職することになりました。日々成長する子どもたちと触れることで貴重な毎日を過ごすことができ、学ぶこともたくさんあり、自身の成長にもつながりました。保護者のみなさま、子どもたちに心より感謝を申し上げます。またどこかでお会いできる日を楽しみにしております。本当に今までありがとうございました。

お会い



看護師 丸山 杏里

今年1月から病気療養のためお休みをいただいております。そんな中で子どもを授かり、現在妊娠5ヶ月になりました。

新型コロナウイルス感染症が流行するいま、子どもたちの支えになれず心苦しいですが、産後まで引き続きお休みをいただくことにしました。

しばらく間があいてしまいましたが、これからもどうぞよろしくお願ひします。

